

# 日田市教育大綱

2026

【解説編】

【基本理念】

# Take Action

for the Future

学び、考え、行動する

未来の社会を創るのはわたしたち

## なぜ、教育を変えるのか？

今、子どもたちを取り巻く社会は、人口減少、AIを始めとするデジタル化の急速な進展、グローバル化などにより大きく変化しています。

そして、子どもたちが生きていくこれからの社会の変化はもっと大きく、私たちの予想をはるかに超えていくでしょう。

そんななか、子どもたちに求められるのは、自ら問いを立て、情報を収集し、多様な仲間と協働して、答えを見つけ、新しい何かを創り出し、そして、社会をより良い方向に変えていく力です。

そんな力を子どもたちが得るためには、教育を変えなければなりません。

子どもたちは一人ひとりみんな違います。

画一的な「そろえる教育」から一人ひとりの特性を活かした「伸ばす教育」へ。

まず、子どもたちが「分からなかったことが分かるようになる」「できなかったことが出来るようになる」という「学ぶ楽しさ」を知ることが必要です。

そして、「自分で学び、考え、行動する」。

これらは、咸宜園教育の礎である「咸宜」「敬天」「治めてのち教える」という考えに通じます。

「咸宜」は『多様性の尊重』

「敬天」は、人の評価ではなく、自分で自分を律する『主体性』

「治めてのち教える」は、知識の伝授の前に、まず『学びに向かう姿勢』をつくること  
変わる事のない咸宜園教育の「不易<sup>※</sup>」に社会や時代の「流行」を取り入れて、子どもたちの「今」も「未来」も大切にする。

日田市は、そんな教育を目指して、大綱を定めます。

※不易：ふえき／時代を超えて変わらない価値のあるもの

## なぜ、教育を変えるのか？(1)

### 教育を取り巻く環境は大きく変わっています

人口減少・少子高齢化やグローバル化の進展など、社会環境の著しい変化とともに、現代社会は情報にあふれ、あらゆる場所でデジタル技術が活用されるなど、教育を取り巻く環境も大きく変わってきています。

そのため、子どもたちがこれからの社会を生きていくために求められるチカラや思考なども、これまでと異なり、変化しています。

- <社会環境> ●人口減少、少子化、高齢化 ●AIやSNSなどデジタル化の急速な進展  
●グローバル化 ●子どもの貧困、経済格差  
●社会のつながりの希薄化
- <求められる力> ●知識・技能 ●情報収集・活用能力  
●主体的思考力・協働的思考力 ●創造力  
●課題発見力・解決力 ●行動力、挑戦する力  
●意欲や自信、協調、共感など数値で測れない力（非認知能力）
- <教育課題> ●子どもたちの多様性を活かす教育 ●デジタル学習基盤（ICT等）の効果的活用  
●安全・安心な教育環境 ●教職員の働き方改革と教育の質の担保  
●「正解主義」や「同調圧力」への偏りからの脱却

## なぜ、教育を変えるのか？(2)

### 子どもたち一人ひとりの特性や関心・意欲は、さまざまです

子どもたちは、それぞれ多様な才能や資質を持っていて、それをいかに伸ばしていくのか。

一人ひとりが持つ長所や強みに着目し、可能性を引き出して発揮させていく視点が必要です。そして、子どもたちの個性を尊重し、子ども一人ひとりの多様な幸せ（ウェルビーイング）を高めていきます。

- ・話すこと、聞くこと、書くこと、読むことが得意な子ども
- ・音やダンスで表現することが得意な子ども
- ・文字情報や音、映像などの情報の扱いが得意な子ども
- ・興味、関心や知的好奇心が旺盛な子ども
- ・特定分野に極めて高い集中力を示す子ども

なぜ、教育を変えるのか？(3)

### 教室には多様な子どもが集まっています

「同じペースで 同じことを 同じ方法で」の教育だけでは限界があります

子どもたちには、発達の程度や学習の理解度に個人差があったり、理解しやすい方法も子どもによって様々です。

多様な学びのニーズを持つ子どもたちが集う教室では、画一的な一斉授業による「同じペースで 同じことを 同じ方法で」やっていく学習を変えていく必要があります。

#### 【35人学級の場合の割合】

特別な教育的支援の必要性 ※学習面や行動面で困難を示す	発達障害の可能性のある子ども	
	全国	日田市
	3.0人(8.8%)	3.2人(9.1%)

不登校の子どもに対する支援 ※年間30日以上欠席	不登校の子ども	
	全国	日田市
	1.4人(3.9%)	1.3人(3.7%)

家庭の学習環境の違い ※家にある本の冊数と正答率の間には相関あり。	家にある本が少ない子ども (家に本が10冊以下と答えた割合)	
	全国	日田市
	5.6人(16.0%)	8.1人(23.0%)

子どもの学習習慣の差 ※家庭や塾での学習時間と正答率の間には相関あり。	平日に家庭で学習しない子ども (授業以外で平日に勉強を全くしない又は30分未満と答えた割合)	
	全国	日田市
	6.1人(17.5%)	6.4人(18.2%)

※数値等の出典は巻末に記載

# 子どもの「今」も「未来」も大切に

3つの方針で教育に取り組みます

## **Policy01** 学びを変える

従来の画一的な一斉授業のスタイルだけではなく、自ら学び、そしてたくさんの人と対話をして学び合う。

子どもたちの声を聞き、すべての子どもたちの可能性を引き出すことを目指して、「そろえる教育」から「伸ばす教育」へ転換を図ります。

## **Policy02** 学校を安全で、安心な場所に

犯罪や災害から子どもたちを守る。

そして、誰一人取り残さず、不登校や支援を必要とする子どもを含め、すべての子どもたちが安心して学びを進める学校。

一人ひとりが失敗を恐れず、安心して挑戦できる、笑顔と真剣なまなざしがあふれる学校を目指します。

## **Policy03** 「ひた」の子どもを地域とともに

子どもたちを育てるのは、家庭と学校だけではありません。地域の子カラを子どもたちに。地域と一緒に子どもを育て、社会とつなげます。

**Policy01 学びを変える**  
(すべての子どもたちの可能性を引き出す)

**Project 1 「そろえる教育」から「伸ばす教育」へ**

- ・子どもたちの声を聞き、主体的・対話的で深い学びを実現します。
  - 学ぶ楽しさを実感できる授業
  - デジタル学習基盤（ICT等）の活用による自分にあった学びの選択
  - 一人ひとりの特性や学習到達度等に応じた学習と、多様な他者と協働して学びを深める学習の推進
- ・さまざまな人材が学びを支えます。
  - 特別支援教育補助職員や日本語指導支援員、看護師等による個に応じた支援
  - 英語を使ったコミュニケーション能力と学習意欲の向上を目的としたALTの派遣
  - 外部支援員を活用した、中学生の基礎学力の定着を図る水曜塾の実施
  - 学びを深めるための専門的な人材活用

**Project 2 学びをつなぐ**

- ・幼少期及び小中学校における一貫した支援を継続します。
  - 幼児教育施設と小学校との連携、小学校と中学校の連携の充実
  - 中学校から高校への円滑な接続・連携の推進
  - 子どもの成長や学びの連続性、系統性を意識した教育活動の推進

**Project 3 未来への希望とあこがれをつくる**

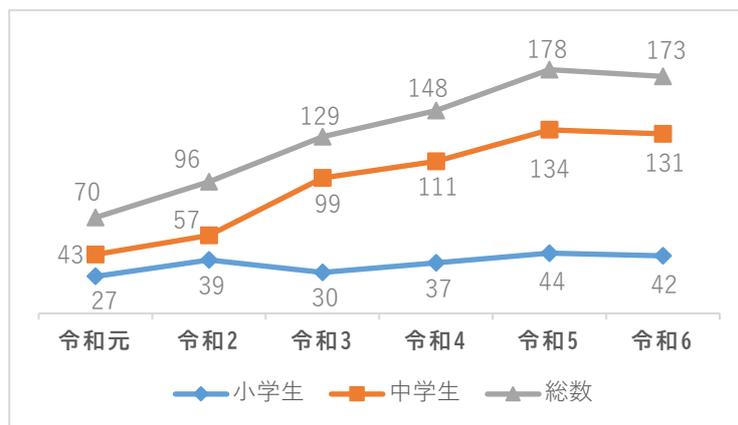
- ・多様な人々との出会いや体験を通じて、なりたい自分に出会える取組を推進します。
  - 多様な仕事をしている大人たちによる授業
  - 他の地域や国の人たちとの交流
  - アスリートやアーティストとの交流

Policy02 学校を安全で、安心な場所に  
(笑顔と真剣なまなざしがあふれる学校)

Project 1 誰一人取り残さない

- ・子どもたちの声を聞き、増加する不登校児童・生徒への支援を行います。
  - 教育相談員、保健師、臨床心理士、スクールソーシャルワーカー等による総合的な相談支援体制の整備
  - 心の相談員派遣による登校支援体制の充実
  - 教育センターのオンライン支援による「だれともつながっていない」状態の解消
- ・教室に入るのがつらい子どもたちの学びを支援します。
  - 登校支援員のいる校内学習支援室の拡充
  - 「やまびこ学級」「フリースクール」等と連携した学びの場の保障

日田市の不登校児童・生徒数（人）



▼不登校児童生徒数のうち、学校内外の機関等で相談・指導を受けていない児童生徒数 10人に1.04人（令和6年度）

不登校は「年間30日以上欠席」とされ、全国的に増加傾向にあります。日田市においても同様です。不登校児童・生徒に対しては、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」の成立を機に、不登校は無理に学校に戻すのではなく、子どもの「社会的自立」を第一に考え、多様な教育の機会や学びの場を提供していく、という方向へ変化しています。

- ・こども総合部を設置して、総合的な支援を行います。
  - 「こどもをまんなか」に、教育、福祉などの組織・所管を超えた相談支援体制
  - 「こどもをまんなか」に、ライフステージを通じた切れ目のない支援
  - 「こどもをまんなか」に、関係機関と連携し、支援の方向性や組立てを考える司令塔機能

## Project 2 いじめを許さない

- ・子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、いじめ問題に積極的に取り組みます。
  - 日田市学校問題支援チームの活用や関係機関と連携した、いじめ事案への組織的な体制の強化
  - 学校の教育活動全体を通じた人権教育の推進

## Project 3 心と<sup>からだ</sup>身体を守る

- ・何より学校は安全であること。学校内における児童生徒や教職員の安全対策を充実します。
  - 実践的防災訓練や地域と連携・協働した防災訓練など、防災教育の充実
  - 防犯カメラの運用やスクールロイヤーの活用など、犯罪被害の防止
  - 日本版D B S<sup>\*</sup>活用の徹底
  - 安全で安心な給食とアレルギー対応食の提供
  - 職場環境の改善や巡回相談等による教職員のメンタルヘルス対策の強化
  - 外部人材を活用した情報モラル教育の推進

国の調査によれば、子ども専用のスマホ利用率は、小学生（10歳以上）は72.0%。中学生は95.3%です。SNSなどが子どもたちに急速に普及する中で、情報モラルについて指導することも一層重要となっています。

※日本版D B S

：「子ども性暴力防止法(2026年12月施行予定)」による教育・保育等従事者による子どもへの性暴力等の防止措置

Policy03 「ひた」の子どもを地域とともに  
(地域と育てる、社会とつながる)

Project 1 地域と育てる

・「ひた」の子どもたちの強みは、地域とつながっていること。子どもたちの声を聞きながら、地域とともに、子どもたちを育みます。

- 学校と保護者や地域が共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させるコミュニティ・スクールの推進
- 少子化が進む中でも、将来にわたって継続的にスポーツや文化活動に親しむ機会を地域社会で支えるための中学校部活動の地域展開

Project 2 地域を学ぶ

・自然、歴史、文化、ものづくりの技術、農産物など、日田の魅力を学ぶ取組を推進します。

- 地域の先哲を学ぶ学習の充実
- 日田の「もの・ひと・こと」を学ぶ探究・体験学習の充実

Project 3 地域で学ぶ

・地域との交流や体験活動を通じ、社会とかかわる学習を推進します。

- 放課後子ども総合プランの充実
- 社会教育施設や市の関係部局と連携した様々な体験活動の実施
- まつり等の地域行事やボランティア参加による地域貢献

# Take Action for the Future

学び、考え、行動する  
未来の社会を創るのはわたしたち

日田市はこの基本理念のもと、  
子どもたちの「今」も「未来」も大切にし  
子どもたちの可能性を最大限に開花させる教育を目指します

## < 参考出典 >

P4：35人学級の場合の割合は、平均値等を1クラスに仮に見立てた場合の数値

○発達障害の可能性のある子ども

(全国) 令和4年度文部科学省通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果

(日田市) 令和6年度日田市特別支援教育活動サポート事業に係る調査結果

○不登校の子ども

(全国・日田市) 令和6年度文部科学省児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

○家にある本が少ない子ども、平日に家庭で学習しない子ども

(全国・日田市) 令和6年度全国学力・学習状況調査 児童質問紙、生徒質問紙結果

・あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。

・学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか。(学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

P8：スマホ利用率調査 こども家庭庁令和6年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果